

1 単元 食べ物のひみつを教えます

2 目標

伝えられたことをもとに、自分の文章をよりよいものにすることができる

3 情報の交流をする場面で期待される効果

作文の下書きを読み合い、文のよいところやもう少しよくなると思うところに付箋紙を使ってアドバイスすることで情報の交流を行い、自分の文章をよりよいものにす。アドバイスを伝えるときは、キーワードで表現するようにし、自分の伝えたいことを明確にするようにする。

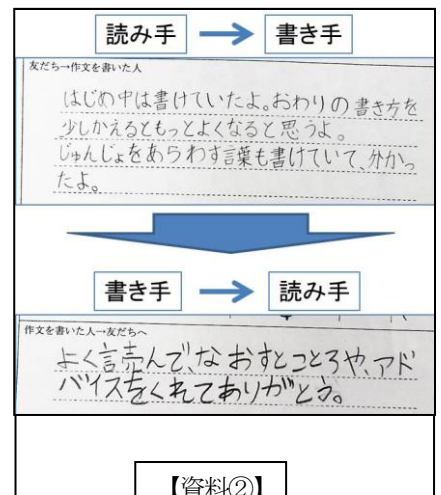
4 実践の様子

作文用紙を受け取ると、どの子どもどこに付箋紙を貼ろうか考えながら、丁寧に作文を読んでいた。そして、気がついたことがあるとすぐに付箋紙を貼り、作文用紙は付箋紙でいっぱいになった。そして、「くわしい」「調べ方がわかる」など、ポイントをキーワードとして書いて付箋紙を貼ることができた。作文を返してもらくと、子どもたちからは、「僕は付箋紙が5枚だった」「私は9枚も貼ってもらえた」と、うれしそうな声がたくさん聞こえた。付箋紙のキーワードを読んで、「調べ方がきちんと伝わった」とつぶやく声もあった。【資料①】



【資料①】

次に、付箋紙だけではどのように直せばよいか伝えきれないことを伝えさせた。ある子は、「はじめ、中は書けていたよ。おわりの書き方を少し変えると、もっとよくなるよ。順序を表す言葉も書けていて分かったよ。」と伝えていた。それに対して、書き手は、「直すところやアドバイスをくれてありがとう」と答えていた。そして、子どもたちは下書きや付箋紙を見直しながらか書をしていった。【資料②】



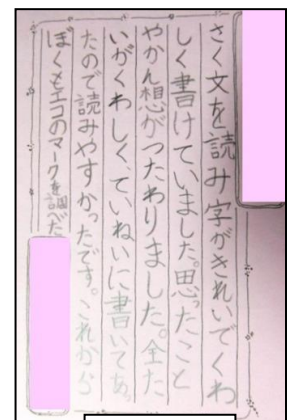
【資料②】

最後に、完成した作文を再び読み、感想を手紙で伝えた。手紙をもらった子どもたちは、にやりと笑い、うれしそうにその手紙を読んでいた。ほとんどの子どもは、キーワードを踏まえて手紙を書いていた。

【資料③】

5 成果と課題

- アドバイスをキーワードで書くようにしたことで、伝えたいことは何か明確になり、また、相手もどうしたらよいか分かりやすかった。
- 付箋紙を使ってアドバイスをし合うことで、どこをどう直せばよいかははっきりするので、自分の下書きを丁寧に直し、よりよい文章にすることができた。
- 伝え合うペアによって、付箋紙の枚数やアドバイスの内容に差ができてしまった。書く内容ごとにしたり、複数の組み合わせを考えたりするといった手だての必要性を感じた。



【資料③】